

メカトロニクス国際会議 〔 略称 ICAM 〕

社団法人日本機械学会当該会議実行委員会
(東京工業大学工学部生産機械工学科 教授)

委員長 伊東 誼

(昭和63年度国際会議等開催準備助成 AF-88032)

1. 開催日時：平成元年5月21日～5月24日

2. 開催場所：東京

3. 会議開催に対する成果：

開催準備助成金を受けた本国際会議のテーマである「メカトロニクス」が、和製英語であることから、会議の開催目的が特に国外において理解されず、研究論文や展望論文の発表申込み及び会議参加者が少ないのではないかと懸念された。そこで、受けた助成金により国外への「研究発表や会議への参加」勧誘を積極的に行い、まず次のような直接的な成果をあげることができた。

(1) 論文発表数は、国内111編、国外27編(10ヶ国)、計138編
国外では、米国、中国及び西ドイツよりの論文提出が主であった。

(2) 会議参加者は、国内249名(大学76名、官公庁・研究所10名、企業163名)、国外58名(12ヶ国)、計307名の多きに達した。国外では、米国及び中国よりの参加が多い状況であり、メカトロニクス技術の現状、すなわち日本及び米国がこの分野の先導的立場に位置していること、並びに中国がこの技術に大きな関心を示していることを良く反映していた。

要するに、国際的にも初めての試みであり、対象が境界領域の学問、技術しかも国外では未だ定着していない「メカトロニクス」の国際会議を成功裡

に開催することができた。

また、助成金により本会議を広く国内・外へ宣伝した結果、次のような波及効果も得られた。

(1) メカトロニクスの学術研究領域としての重要性を国内・外に喚起し、その結果、アメリカ機械学会は1990年、また英国機械学会は1991年に同種の国際会議を企画中。

(2) 「メカトロニクス」なる和製英語が、米国、英国、フィンランド等に定着しつつある。

ここで附言すれば、この種国際的にも先導的な国際会議を我が国で開催すべく企画をすると、多くの場合に財団等よりの助成を受けにくく、財政面での困難に遭遇するのが常である。今回は幸いにして貴財団の御理解を得、好意ある御配慮を頂き、前述のような成果を得ることが可能となった。

最後に、今般の御援助に対して深甚の謝意を表したい。